

会 議 録

会議名 (審議会等名)	社会福祉審議会児童育成専門部会		
事務局 (担当課)	健康福祉部 すこやか子ども室 内線(2683)		
開催日時	平成19年7月25日(水) 13時30分～14時45分		
開催場所	川西市役所2階 202会議室		
出席者	委員 (敬称略)	西尾部会長、喜谷職務代理者、濱蔭委員、若松委員、澁野委員、南委員、柳川委員、熊田委員、松本委員、下山委員、伊賀委員、橋本委員、森友委員、石橋委員、山口委員、秋田委員 計16人	
	その他	健康福祉部益本部長、福祉推進室水越室長、健康づくり室木下主幹、学校教育室学校教育担当和田主幹、同室学務担当船曳主幹、生涯学習部地域教育課吉田課長	
	事務局	すこやか子ども室藪野室長、同室子育て支援担当小林主幹、同室保育所担当塚北主幹、子育て支援担当小倉副主幹、同担当中西主査、	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合はその理由			
会議次第	(1) 川西市次世代育成支援対策行動計画の平成18年度事業進捗状況について (2) 新設保育所整備法人の決定等について (3) その他		
会議結果	詳細は、審議経過のとおり		

審 議 経 過

部会長	<p>1. 開会 健康福祉部長挨拶</p> <p>2. 委員紹介 部会長挨拶</p> <p>3. 議 事 それでは、本日の議事に入る。</p> <p>議事第1の川西市次世代育成支援対策行動計画の平成18年度の事業進捗状況について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>次世代育成対策行動計画は策定から2年が経過し、3年目に入っていることから、今回の進捗状況の検証に際して、現時点での各事業の進捗状況に併せて、平成21年度の目標に向けた見込みについても検証している。計画初年度は143事業で策定していたが、現在149事業となっている。</p> <p>それでは、平成18年度に実施した新規および拡充事業について説明をさせていただきます。</p> <p>(資料2の次世代育成支援対策行動計画について説明)・・・別紙資料</p>
部会長	<p>多岐に渡っての事業ですが、何かご質問、ご意見をお願いします。 まず、進捗状況自己評価となっているが、自己とは誰のことか。</p>
事務局	<p>自己評価は、事業担当の各所管が判断したものである。</p>
委員	<p>子育て支援センター事業の目標が達成できないということであるが、国の制度が少し変わったように思う。これまで、この計画ができた時は大規模型、小規模型に区分されており、その時にセンターは市に一つということになっていたが、この4月から小規模型がなくなって、「ひろば型」のセンターをつくってもよいと制度が変わったように聞いている。市として、今後子育て支援センターの設置に関してどう考えておられるのか。</p>
事務局	<p>子育て支援センターの整備として、次世代育成支援対策行動計画の策定時では、21年度設置目標を5か所としていたが、県の方針として、各市町村に通常型、いわゆる大規模型が1か所という一定の設置数の目標を掲げている。この関係で本市においても各市町村1か所ということで、17年度～19年度は1か所</p>

	<p>に留まっている状況である。</p> <p>なお、小規模型については、19年度から制度が変わり、3か年の経過措置を設け、つどいの広場事業の「ひろば型」に移行していくという内容変更である。しかしながら、大規模型については、依然として週5日もしくは週6日～7日の2種類の提示をされており、大型の支援センターについては、引き続き存続していくという認識である。</p>
部会長	<p>「ひろば型」ということが出ましたが、説明してください。</p>
委員	<p>小規模型の子育て支援センターは、「つどいの広場のひろば型」に移行するという事務局の説明でしたが、大規模センターと違って、「ひろば型」は週のうちの開催が少なかったり、大規模センターは保育園の施設の中でセンター事業をしなければいけないという規定があるが、ひろば型はどこかの会館を借りてつどいの広場ができるというゆるやかな子育て支援センターであると思う。現在、子育て支援センターはパステル保育園の一つであるが、大規模にこだわるとセンター事業が広がらないので、積極的に「ひろば型」を広げてほしい。</p>
部会長	<p>部会の意見として、記録に残してください。</p> <p>それでは、次の議題2 新設保育所整備法人の決定等について、事務局説明を願いたい。</p>
事務局	<p>(資料3について事務局説明)・・・別紙資料</p>
部会長	<p>法人の決定にあたっては、私どもの部会からも2人の委員が参加をしてもらっていた。では、ご質問、ご意見をお願いします。</p>
委員	<p>付帯意見の について、民間園に移行することで公立園と対比して、保育の質を落とさないようになっているが、具体的には、市はどのように差がないように検討をされていくのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>公立保育所と私立保育所の保育の質が話題になる時には、民間保育所運営経費の問題をさけて通ることはできない。民間保育所が保育の質を落とすことなく園運営ができるために公費のあり方について検討しなさいと意見をいただいております。また、私どもも必要と考え、まだ、具体的などころまでには至っていないが前向きに検討したいと考えている。</p>

部会長	<p>今の段階ではまだ、これ以上の答えは期待できないと考える。</p> <p>川西市においては、公立の保育水準が高いということでこのような意見が出ると思うが、比較の問題で広い視野で全国的に見ると公立と私立のどちらが保育水準が高いかは一概に言えない。川西の特殊事情として、こういうことがあることを担当の方は肝に銘じてほしい。他にありますか。思い出されたら後でもけっこうです。</p> <p>次に議題3のその他、事務局何かありますか。</p>
事務局	<p>昨年、健康福祉部の若手職員が集まったプロジェクトチーム「K - S T A F F」が、「かわにし子育てガイド」を作成し、このたび発行しました。</p> <p>市内の全小学校、幼稚園、保育所や行政センターの窓口、また、出生届や転入届に来られた子どものいる家庭に子育て情報の一つとして、配布しておりますのでご紹介させていただく。</p>
委員	<p>1～2年前から、公園からブランコ、スベリ台がなくなり、何もなくなった公園もある。傷んだから修理をして、いつ頃つくのか、小さい子が遊ぶためのブランコ、スベリ台、砂場など基本的な遊具がない。</p>
事務局	<p>本日は、公園管理を担当している水と緑の推進課が出席しておらず、事前にヒヤリングした内容を報告させていただく。</p> <p>市内に遊具は約900基、そのうち今後の撤去予定が100基、修繕予定が200基、新設は6基の予定と聞いており、個別の公園の情報については、申し訳ありませんが、今資料を持ち合わせていません。</p>
部会長	<p>その公園がどんな年齢の子どもを対象にしているのか、スベリ台、ブランコは幼児向けであるが、その辺のコンセプトがあるのか。担当の方がいらっしゃらないので次にしましょうか。</p>
委員	<p>公園の砂場に紫外線よけ、雨よけのネットがあればつどいやすいと思う。市の許可を得て、ポールを建てても良いのであれば、費用的にも高くないのでモデル地区として私たちも取り組んでいきたい。幼稚園や保育園でもネットが使われており、公園はいろんな人が利用されるが、小さい子ども向けに大事であると思っている。</p>
部会長	<p>委員は主任児童委員という立場で、児童の専門として関心を持っておられる。事務局で検討してもらうように願いたい。</p>

事務局 部会長	公園改良事業については、子育て担当としても、大きな施策と考えており、公園所管担当へ委員の声を伝えさせていただく。
委員	他に何かありますか。
委員	事業番号74番の10か月児健康診査時に保健師、保育所の職員などが連携して、親子で読みたい本を紹介するブックスタート事業を始めた。これは、公立の保育士が保健センターに行き、本だけを薦めるのではなく、絵本の読み聞かせをすることにより、言葉の獲得や親子のふれあいを大切にしている。保育所の園庭開放でも、ブックスタートの本を置いて紹介している。また、現在週1回2時間の園庭開放であるが、たくさんの方がお見えになり、子育ての悩みごとを受けると、保育所が拠点となればと考え、努力していきたい。
委員	事業番号35の通常保育の幼保総合施設について、どのように調査研究をされ、今後どのような方向で進められるのかお聞きしたい。
事務局	市内の保育所のあり方、位置づけについて、計画をつくる必要があり、今後作成していく予定にしている。幼保総合施設についても、調査研究する計画に当初はあげていたが、現在は検討が進んでいない。今後整備計画の中で検討を進めていくことになるものと考えている。
委員	幼保総合施設とはどういう意味合いを持ったものか。
部会長	幼保一元化の問題は、昭和23年の児童福祉法が試行されて以来、懸案となっている。同じ日本の子どもを片方で保育所、片方で幼稚園はおかしいという議論である。当初は幼稚園側から保育所を下に見るといふ風潮があり、幼保一元化の議論は保育所で起こってきたが、幼稚園が相手にしなかった。それが高度成長から安定成長になる頃から、少子化の影響が出て、児童の争奪がはじまった。争奪が始まると保育時間や給食などで幼稚園の方に分が悪く、全国的に経営難で廃園になる幼稚園も出てきた。この時期、幼稚園の主張として、同じ日本の子どもなのに保育に要する費用が保育園に比べて10分の1しかもらっておらず、おかしいのではないかと幼保一元化の声があがってきた。時代背景もあるが、現実には幼稚園が限りなく保育所化し、保育所がまた幼稚園化している現状では、もう分け隔てするのは意味がないのではないかと、統合して、どちらのニーズにも制度の枠を超えて対応していけばよいのではないかと議論から、保育所と幼稚園が統合する総合施設という発想がでてきたように私は理解している。

委員	認定子ども園というあたらしい制度ができ、部会長さんから説明いただいた幼保総合施設と認定子ども園とは少し違うのではないかと思うので、市として総合施設をどのように考えておられるのかお聞きしたい。
事務局	幼保総合施設は認定子ども園とは限定せず、幼稚園と保育所のあり方をまず考えていきたい。この段階では幼保総合施設的な表現をしている。今のところ教育委員会と福祉で連絡会的なものを持ちながら調査研究していきたいと考えている。
部会長	他にありますか。
事務局	本日審議していただきましたこの行動計画の進捗状況について、今後市のホームページに掲載するのでよろしく願います。
委員	川西市においては、幼保一元化に向いているのですか。
事務局	向いているということは全くなく、そういうことを含めて考えていく必要があるということです。
部会長	他に意見がありませんか。無いようでしたら審議を終了する。みなさんの協力により、スムーズに進行できましたことお礼申しあげる。
事務局	本日は長時間ご審議ありがとうございました。

別紙資料は市政情報コーナーに備え付けています。